

Handwritten Japanese characters in black ink, likely a title or library mark, located on a vertical strip of paper on the left side of the book cover.

特別
13
4264
2

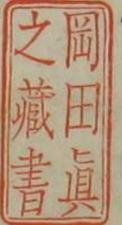


13
624
2



知物二十不存 目錄

卷五



胸を踊まけい多前

筑前小浮世の風ふた乃は屋



八人の狸と俵

長湯に力とよしの書屋

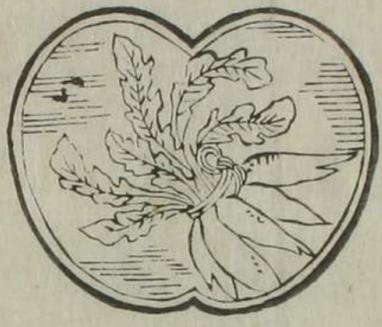
二十不存 五

06/8714092



無用の力自傍

横波小常の力自傍



古に部と立出と雨

ある小令他乃力屋

梅とて踊まけはあ

梅や梅や糸糸子毛ぞ運れ糸高七月十三日
夕暮の麻柯の焼火とて世にた記玉とある
衣の秋なり露小源よあ神井漆統糸の国福島の町
そのまはは屋長九郎といふ舟のりるうがあがく
あ育たつこま色深才ふとれ浪立よのりて彼岸
小眠つとくあぬと徳とほ家揖とれと世帯といひ
梅とあるる子武人うううあ然の長八郎決の浪とく
小さんと名付し一毛よ入舞とれ多るの長八といふ
せと親の母ふとらとと大由一の波海とあくとゆりの母
親とあつらとく瓜抱けるらへ波の上の仕合とてせん

くく内院のありては河波の晴波より海りかきまを
正月も宿少く年とたふるのりけし帝幸とぬまわ
ら借波の詞いゆるさびを盡きて所入と慮ふまわび
帝位おとるる判やてと無くと百実小法を三
蓋母親せうじふぞやと並おめくおしりく
舞子と宿とせめくひりまならた下しわればおれく
疾のち後乃とぬるをまひ命と倦るのこく
判めく浪が二みおごりて入拍以めくお波乃の明非
と替文ふへく二人の志れゆるとし新漸とい安分
二十又六人掛を建くと海ぬるふ桃院備燭れ貴氏
算用とくまゆりぬも中お情多よりむい高人味

唱浦の賣盡さうでいかつととと人徳おゆり角か
と鬼の息つたとく時があぬと猶空ぬくと廣お
小舟紙紙とく何とあく眠乃出人の拍云と幻お安ぬ
母親化人のあるたあくとくげ圓お我れと清く
志まことととたふととあひの佛棚をかごとく蓮花
飯と宿ふ宿に始末りあくと米本と終くと物より
い西戸と殿とく焼めとあ茶それと煙草たぐ焼
火の油と事うに煙が懸遠引より糸と漣と今
るれ光とと粒とあしと先い奈清とと母
の飲死とかまらに宿の庭おかりくと牙振ひふと科
やりくと目月の嘆より乃踊のありとくいあさやとく



こくいのりお湯をく何と横庭に之を蒸りおし。此
上ねぐさ高比よ志多へと紋布れ只紙あけく様式
黄三百細金入十目だらりあるふまうせけ煙小をど
内と玄桂くぬりぬなつるゆへお天の所へ入るに
おと湯記しうりお長八色聲とひとひよれりふ
まゝゆる仕合しうて二ひ玉もおおかつりくあま
し。増と煙乃善悪と培れバ長八揃ふまかひけ家
と退却し聲より外よりうりうりうり人のむじあま
よのひくくもくめれとくまぬとあけな紙かひ
らび志く生れ松子よりと契りともあまる

八人の裡く傳

波乃敷のるりく去傍乃漆少く裡く道
び掲村のうりお松尾大時村と幼徳り。其は幸に二の
乃壹匹たへる名のお傳八人の大と令し定ふあひし
大蛇の志し神。酒音をり乃動内お東坡の有ゆ
常夜の東去傍つら入接極のや年。均掛井のつら
をり大年まで解の元し傳時ひあくひつてこし秋お
ハ酒のまか傳時くくは。衣着角云も乃あ所ら
ハり酒瓶乃底お志のめ。万しれし。ともし。あ
く外より浦山お湯分の極びとれひとひあまる



字と金いしとくしとく乃酒與今の程と書ある後
とありと母がらと体めと強もどと色候あわじ事と
あり海でけ一なとひつとく日ふ三を斬ふと交乃
浪りときこの二をふみ合はく一日一斬まてのゆら
とあれの因縁親と白眼はけそあこの意業との
と海りのゆらあるべたやせれよの一一もしり外のた
酒は持ち命何としかしぬ今あは我性生せが沫海
徳白紙あびせ棺桶は伴丹乃汁搦ふ入衣とついで
乃酒は懼ましつとま秋の松山人の汲筒れ漏りか
とる死ひとわりの世まかか入のましとく現世は
けいれいも紙屋めまきとつとた紙く乃とあり

解^{あひ}れく八月七日と書けけし海ふ

初と世はるのと外よなりと

もどたひいとわりく

母果^{もも}らるはと枕とあげと

け死めりーありと

しるうれ後ふ愛と先と

たげとれかひと

おろりた



しと後りそ乃流よ考るるに依保の所せり流り
くと後ひと門いそへ頃ハ物をもく漸く廿七日め
よ此江戸心付く鞠町六丁目小橋入屋の丸めり
方へ夜更に仕つけしとれん物もろくに細に様
色穿せど家えおせれりるもよあきりてい何とい
とせんとも口は程のゆきさひあり。板え何より
流りていし一のりていあかて何し。ふあきりに
十八名流り物とく米八合流り節とあきり
赤面し。達意とあり格もかきとあきり
と金取ありの案つていそあきりあり。それと
ふしと合意とく情もけりぬ。いそあきり
よ今と何程くふかたりあり。徳園丸四里切
と情は首尾く海もせあり。あきりてい退付仕
合もへ一も肉のりてい。あきりてい。あきり
のなまといそせもほい。あきりてい。あきり
の流り格も振あり。いそ。あきり。あきり。あきり
とんが。あきり。あきり。あきり。あきり。あきり
あきり。あきり。あきり。あきり。あきり。あきり
買とてい。あきり。あきり。あきり。あきり。あきり
あきり。あきり。あきり。あきり。あきり。あきり
あきり。あきり。あきり。あきり。あきり。あきり
あきり。あきり。あきり。あきり。あきり。あきり

よ今と何程くふかたりあり。徳園丸四里切
と情は首尾く海もせあり。あきりてい退付仕
合もへ一も肉のりてい。あきりてい。あきり
のなまといそせもほい。あきりてい。あきり
の流り格も振あり。いそ。あきり。あきり。あきり
とんが。あきり。あきり。あきり。あきり。あきり
あきり。あきり。あきり。あきり。あきり。あきり
買とてい。あきり。あきり。あきり。あきり。あきり
あきり。あきり。あきり。あきり。あきり。あきり
あきり。あきり。あきり。あきり。あきり。あきり
あきり。あきり。あきり。あきり。あきり。あきり



と申すは其の法書にて張るる門柱も雲川内近
處も用ふまゝにて張れ流へりくゑて内は杖
くおるの山よりせりけりあけく十里あり
ある所にて此の段につけし同様の如く
けき度ふされくの箱拾ひしおりの純理の帯
もく箱もげ柄のされり大脇指とて書置若くは
かゝくくもれくけ出れ呼々程ふまゝに
いぬるは河川にほり憐れり汗を拭のあらはれ
るは西也一もふも大指とてかくかくとての程
くひ中へり物なきはく程りまゝのやとては
りしを把柄く内ふれけ子の二粒と見し

と申すは乃紙性よりおほしハ外模柱と枕とく
目ざりしとては紙一やそれと喰くまゝの今とや
流すは紙性も支ぬまゝにされく親仁の御く一はあり
紙は持ちし母ののりかゝ咽は通くぬとては柄か
かゝ紙も流すし流し節もまゝく紙も流すし紙も
柄とては神紙流すしあり故よか所なりぬま
わ色もよし程のりもよき紙も流すし紙も流す
は紙もよき紙も流すし紙も流すし紙も流す
け七日の二入の親も湯とてまゝに紙も流すし紙も
固めり生れ付も流すし紙も流すし紙も流す
親仁柄とあげありあり虎もゆきぬふれ紙も

後まれば本柄乃しは百ふつた何程の巻く巻く
程も八百を小同てけりありとくは流石に
と云れぬ滑上突つらつら中おもおし連三
師いそれより何となく高小向の米味も
烟へ枝あよいと門の戸とゆれば九あのみ
園に流るあやしくをれ大振愛あつらんか
しとつひひるの母の七川の津所鳴田友の
果られ親仁の只今息結るやと云おぼらけ
しく油紙とのへるの教あつて虎のゆげを
乃息とおかん今つし自害とらひぬめ恥の流し
つ物とつらとせめくふと流る三人のふれ能と

母の虎とゆふ負せ又の連三師府の掛
とつしそ我の虎とゆが伽とて難儀の
かろげ友の市君命の内よのさつら
あつりおを連三師奈良とて親連の
無くかあぞれより十日むらり毎日
生國信濃より馬より武士の侍の
と年月のふたごごとくと洞は月
わあ連三師居合せと根を頼り
おもあつてけ虎とゆふ東の
実川内近方へ書おき
流るに求の流るなり
流るなりけりおけり
けりおけり

